

「がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022」発行のお知らせ

この度、日本腎臓学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本腎臓病薬物療法学会の4学会編集による、「がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022」が刊行されます。

本ガイドラインは、「がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2016」の改訂版です。初版より6年が経過し、がん治療薬の多様化とともに、われわれが遭遇する腎障害も大きく変化したことから、今回の改訂に至りました。

改訂に際して、日常のがん薬物治療で問題となるような疑問については、初版と同様にクリニカルクエスチョン方式を採用しました。その際、初版後に出現した新たながん治療薬に関連したクリニカルクエスチョンも組み入れ、丁寧な解説を付した構成となっています。

また、本領域には複数の専門分野の医療従事者が関与することから、16の「総説」を記載することで、上記クリニカルクエスチョンを補完するとともに基本的知識の共有につとめました。

さらに、日常臨床における実用性を考慮して、本文を時系列に沿って再構成いたしました。すなわち、第1章(腎機能評価)と第2章(腎機能障害患者に対するがん薬物療法)では「治療開始前」に、第3章(腎障害への対策)では「治療中」に、そして、第4章(がんサバイバーの腎臓病対策)では「がん治療後」に焦点をあてた内容としました。特に、第4章は初版にはない内容ですが、近年のがんサバイバーの長期予後が改善される中、臨床的意義が大きいと考えております。

執筆者一同、がん薬物療法に携わるより多くの医療従事者の方々に利用していただきたいと願っております。

書名:「がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022」

編集:日本腎臓学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本腎臓病薬物療法学会

仕様:A4判 本文 168頁

ISBN:978-4-89775-457-4

発行日:2022年10月25日

◆がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン改訂のポイント

がん薬物療法時の診療ガイドライン改訂委員会委員長
柳田 素子

本書に関するお問合せ

一般社団法人日本腎臓学会事務局 担当:矢崎

Mail: yazaki@jsn.or.jp

がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 改訂のポイント





1 CQの見直し

初版の発刊後に広く有効性が認識されたCQや、今後臨床試験が行われる見込みが少ないCQをGPS (Good Practice Statement) として扱うこととし、かわりに免疫チェックポイント阻害薬を中心に新たなCQを設定した。

最終的に計CQ11, GPS4, 総説15となった。



2 総説の組み込み

がん診療に関連した腎障害は、腫瘍学（Oncology）腎臓病学とNephrology）を横断する新たな学術領域（OncoNephrology）にて扱われている。

さらに、がん薬物治療を主題とする本ガイドラインは、薬学領域にもまたがる、様々な専門医療の横串的な機能が求められる。

これらを考慮し、異なる分野に共通した背景疑問を明確にする目的で、改定版では「総説」として、背景疑問を記載することとした。

3 がん診療の時系列に沿った構成の採用

実用性を考慮して、 癌診療の時系列に沿った構成を採用し

第1章 がん薬物療法患者の腎機能評価（治療前）

第2章 腎機能障害患者に対するがん薬物療法の適応と投与方法（治療前）

第3章 がん薬物療法による腎障害への対策（治療中）

第4章 がん薬物療法後（がんサバイバー）のCKD治療（治療後）

という構成を採用した。

第4章は2016年版には含まれていない新しい内容である。

がんサバイバーの長期予後が改善する中、臨床的意義が大きいと考えた。

CQ (Clinical Question) を見直し、Q&Aで記載した

初版から引継いだQ&Aはエビデンスを再評価し改訂
新たな前景疑問に対しては新たなQ&Aを設定 (赤太字)

2016年版

- CQ 1: がん患者に対するeGFR評価
- CQ 2: がん患者AKIのバイオマーカー
- CQ 3: CKD患者への抗がん薬減量
- CQ 4: CDDP-AKIのリスク因子評価
- CQ 5: CDDPの分割投与
- CQ 6: CDDP中の補液
- CQ 7: CDDP中のshort hydration
- CQ 8: CDDP中の利尿薬
- CQ 9: CDDP中のMg補充
- CQ10: 腎機能に応じたCBDCA投与量設計
- CQ11: MTX投与中の尿アルカリ化
- CQ12: 血管新生阻害薬中の蛋白尿
- CQ13: BP製剤、抗RANKL抗体の減量
- CQ14: CDDP除去目的の透析
- CQ15: TLSに対するラスブリカーゼ
- CQ16: 抗がん薬TMAに対する血漿交換

2022年版

- CQ1: がん患者に対するeGFR評価
- CQ2: がん患者AKIのバイオマーカー
- CQ3:水腎症に対するステント・腎瘻造設**
- GPS1:腎機能に応じたCBDCA投与量設計
- GPS2: CDDP除去目的の透析
- CQ4:透析患者に対するICI**
- CQ5:腎移植患者に対するICI**
- CQ6: CDDPの腎障害を軽減する補液
- CQ7:蛋白尿患者に対する血管新生阻害薬
- CQ8: EGFR抗体薬投与患者に対するMg補充**
- CQ9: ICIによる腎障害に対するステロイド**
- CQ10: ICIによる腎障害後のICI再投与**
- GPS3:小児CKDがんサバイバーのrhGH療法**
- GPS4:小児がんサバイバーの腎代替療法選択**
- CQ11: がんサバイバーの腎性貧血に対するESA治療**

第1章

がん薬物療法患者の腎機能評価

第2章

腎機能障害患者に対するがん薬物療法の適応と投与方法

第3章

がん薬物療法による腎障害への対策

第4章

がんサバイバーのCKD治療



15の総説を新たに設定した

がん・薬・腎領域で共有すべき基礎的知識を記載
初版時に検討されたCQ (Q&A) も総説に組み込み (黒矢印)

2016年版

- CQ 1: がん患者に対するeGFR評価
- CQ 2: がん患者AKIのバイオマーカー
- CQ 3: CKD患者への抗がん薬減量
- CQ 4: CDDP-AKIのリスク因子評価
- CQ 5: CDDPの分割投与
- CQ 6: CDDP中の補液
- CQ 7: CDDP中のshort hydration
- CQ 8: CDDP中の利尿薬
- CQ 9: CDDP中のMg補充
- CQ10: 腎機能に応じたCBDCA投与量設計
- CQ11: MTX投与中の尿アルカリ化
- CQ12: 血管新生阻害薬中の蛋白尿
- CQ13: BP製剤、抗RANKL抗体の減量
- CQ14: CDDP除去目的の透析
- CQ15: TLSに対するラスブリカーゼ
- CQ16: 抗がん薬TMAに対する血漿交換

2022年版

- 総説 1 : 薬剤使用前にみられる腎障害
- 総説 2 : がん治療薬使用前の腎機能評価
- 総説 3 : がん治療薬使用後の腎障害
- 総説 4 : がん治療薬使用後の腎障害
- 総説 5 : がん治療薬使用後の腎障害リスク因子
- 総説 6 : CKD患者に用量設定が必要な薬剤
- 総説 7 : 透析患者に対するがん薬物療法
- 総説 8 : 腎移植患者に対するがん薬物療法
- 総説 9 : 殺細胞薬による腎障害への対策
CDDP分割投与、利尿薬投与、Mg投与
MTX療法に対する尿アルカリ化
ラスブリカーゼ、血漿交換
- 総説10 : 血管新生阻害薬による腎障害対策
- 総説11 : 蛋白尿を有する患者へのがん薬物療法
- 総説12 : 免疫チェックポイント阻害薬による腎障害対策
- 総説13 : 成人がんサバイバーにおけるCKD
- 総説14 : 小児がんサバイバーにおけるCKD
- 総説15 : がんサバイバーのCKD治療や注意点

第1章

がん薬物療法患者の腎機能評価

第2章

腎機能障害患者に対するがん薬物療法の適応と投与方法

第3章

がん薬物療法による腎障害への対策

第4章

がんサバイバーのCKD治療





がん薬物治療の診療時系列に沿った構成を採用した

新たな総説・CQを、がん薬物の治療前・治療中・治療後に沿って章立て

2022年版 総説

2022年版 CQ (Q&A)

<p>総説 1 : 薬剤使用前にみられる腎障害 総説 2 : がん治療薬使用前の腎機能評価 総説 3 : がん治療薬使用後の腎障害 総説 4 : がん治療薬使用後の腎障害</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; border: 2px solid red; padding: 5px;">治療開始前</p>	<p>第 1 章 腎機能評価</p> <p>CQ1: がん患者に対するeGFR評価 CQ2: がん患者AKIのバイオマーカー CQ3:水腎症に対するステント・腎瘻造設</p>
<p>総説 5 : がん治療薬使用後の腎障害リスク因子 総説 6 : CKD患者に用量設定が必要な薬剤 総説 7 : 透析患者に対するがん薬物療法 総説 8 : 腎移植患者に対するがん薬物療法</p>		<p>第 2 章 腎機能障害患者に対するがん薬物療法</p> <p>GPS1:腎機能に応じたCBDCA投与量設計 GPS2: CDDP除去目的の透析 CQ4:透析患者に対するICI CQ5:腎移植患者に対するICI</p>
<p>総説 9 : 殺細胞薬による腎障害への対策 CDDP分割投与、利尿薬投与、Mg投与 MTX療法に対する尿アルカリ化 ラスブリカーゼ、血漿交換 総説10 : 血管新生阻害薬による腎障害対策 総説11 : 蛋白尿を有する患者へのがん薬物療法 総説12 : 免疫チェックポイント阻害薬の腎障害対策</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; border: 2px solid red; padding: 5px;">治療中</p>	<p>第 3 章 がん薬物療法による腎障害対策</p> <p>CQ6: CDDPの腎障害を軽減する補液 CQ7:蛋白尿患者に対する血管新生阻害薬 CQ8: EGFR抗体薬投与患者に対するMg補充 CQ9: ICIによる腎障害に対するステロイド CQ10: ICIによる腎障害後のICI再投与</p>
<p>総説13 : 成人がんサバイバーにおけるCKD 総説14 : 小児がんサバイバーにおけるCKD 総説15 : がんサバイバーのCKD治療や注意点</p>		<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; border: 2px solid red; padding: 5px;">治療後</p>